

当園では、平成 24 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や、園運営の状況を振り返るとにより、自身や園全体を見つめ直し、さらに向上するための非常によい機会となりました。
今年度の学校評価結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流を通して)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培体験、飼育活動、行事を通して)
4. 豊かな感性、創造力、表現力を育てる。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然に身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「ごめんなさい」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「どうぞ」という 謙虚な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を理解する目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んで行く姿勢を身に付ける。また、自園の自然豊かな環境と少人数での教育環境の長所を認識し、環境を十分に活かした教育を行うことを重点目標とする。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為のどのような取り組みがなされているか。	A	園の教育方針を基盤とし、職員間で話し合いや振り返りを行い、共通理解を深めている。教育方針を念頭に入れながらも、目の前の子どもの育ちや課題に応じて、柔軟に保育内容を計画するよう取り組んでいる。また、行事などの内容についても教育方針・目標に沿い、かつ保護者のニーズも加味したものになるよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	カリキュラムの評価・反省を行い、日々の保育と計画に活かされるよう取り組んでいるか。	A	日々の振り返りは、毎日週案に記録し、毎月末に反省点をまとめ、次の月の保育と計画に活かしている。また、実践した保育の実績と評価・反省をまとめ、職員会議において職員間で共有している。週案作成時には、保育内容や時間の見直しを行ったので、余裕を持った週案作成をしている。
3	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	日常の子ども達の興味や関心に応じて好きな遊びが主体的にできるように、教師の配慮や環境構成を行っている。そして、子どもの興味や関心をもとにカリキュラムを作成し、音楽や造形、体育遊び等、創造的な活動や身体全体を使って行う活動を、多数実践している。
4	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	A	子ども達が日常の生活の中で、自然と異年齢の交流がもてるような部屋の配置を実践している。年長児が、2歳児や3歳児の部屋に自由に行き来し遊ぶだけでなく、身支度やトイレ、片付けなど年長児が自然とサポートできるように日々話しをしながら取り組み、意識も深まっている。さらに、異年齢交流保育(ウキウキデー)を行っており、計画的にグループ交流から始まり、年齢ごとに保育内容を検討、職員間で設定を考え、実践している。異年齢保育後も職員間で、反省、振り返り、次回の保育内容や、配慮点等の課題を共通理解している。日常の意識と異年齢交流保育の取り組みが影響しあって、子ども達の異年齢児に対する思いやりや意識に効果が現れていると考えている。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	園内研修では、月に1回程度、公開保育を実施し、職員間で教材研究を行っている。反省会を充実させ、職員間の研究意識を高めていけるように取り組んでいる。さらに、音楽、体育等、専門分野の講師を招き、指導についてアドバイスをいただき、自らの保育に活かすようにしている。また、外部研修として、様々な研修会の案内を職員に提示し、その中から、自ら積極的に参加している。また、研修会の内容を職員間で発表したり、資料等を配布している。

6	安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園内の安全点検を定期的に行い、修理等の対応も早急に実施した。火災・地震を想定しての避難訓練を年4回実施し、緊急時に備えている。また、不審者の侵入に備え、保護者や来園者の進入経路を少なくした。来園者への園内立入証着用を徹底した。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	B	園児に、手洗い、うがい、消毒の徹底をした。保育室内や、トイレの消毒等も行った。嘔吐などの処理のマニュアルの確認と徹底を行い職員間の意識を高めた。感染症の流行や園児のその日の体調等を全職員が把握し体調の変化に即時対応できるようにした。保護者や来園者の園内立入の際の消毒も協力していただいたが、さらに徹底していきたい。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	B	地域の施設や小学校との交流会等を積極的に行った。老人ホームへの慰問や地域の行事へ参加し、関わりを深めた。園内の畑で一年を通し、計画的に野菜の栽培体験をし、生長を身近に感じ、ている。収穫した野菜等を調理し食べるという体験は、子ども達の食への関心を高め、家庭での食生活の変化や、調理体験にもつながったようだ。

【評価の基準】

A：十分に達成されている B：達成されている C：取組はされているが十分でない D：取組が不十分である

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の反省を個々に十分行い、次の月の保育計画に活かすようにしている。各年齢のつながりをさらに強く意識するため、職員間での、指導計画の反省・評価の機会を持ち、次年度の課題も踏まえ、職員間で引き継げるように、さらに明瞭化していきたい。
2	教育環境の構成	異年齢交流保育は、青山よさみ幼稚園の大きな特徴であり、積極的な保育交流により子どもの思いやりや関係性に効果が現われている。日頃からクラス間の交流を実践しているので、子ども達が、さらに自発的に交流できるよう指導・援助したい。また、職員それぞれの指導力をいかしながら、チーム保育も充実し、子どもの成長を促していきたい。
3	衛生管理体制の整備	園内の安全点検や避難訓練等は継続的に取り組んでいきたい。また、防犯対策にも注力していきたい。特に、危機管理マニュアルの整備に取り組みたい。
4	地域との連携	園児が地域の行事に参加し、演技等披露したり、交流会で地域の方との交流を深めている。これまで以上に地域に根付いていきたい。特に、地域の方に園の行事にも参加していただく機会を増やすため、積極的に行事案内の配布やポスター掲示を行い、情報発信していきたいと考えている。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。この学校評価での反省を活かし、来年度さらに向上されていることを期待します。